

作成日 2020 年 05 月 21 日
改訂日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : ミリオネアフロアブル (インピルルキサ水和剤)
整理番号 : 3050-01
供給者の会社名称 : 北興化学工業株式会社
住所 : 〒103-8341
東京都中央区日本橋本町一丁目 5 番 4 号
担当部門 : 企画部 環境安全チーム
電話番号 : 03-3279-5151
FAX 番号 : 03-3279-5195
緊急連絡電話番号 : 03-3279-5151
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬 (殺菌剤)

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

爆発物 : 区分外
可燃性又は引火性ガス(化学的に不安定なガスを含む。) : 分類対象外
エアゾール : 分類対象外
支燃性又は酸化性ガス : 分類対象外
高圧ガス : 分類対象外
引火性液体 : 区分外
可燃性固体 : 分類対象外
自己反応性物質および混合物 : 区分外
自然発火性液体 : 区分外
自然発火性固体 : 分類対象外
自己発熱性物質及び混合物 : 分類できない

| | |
|------------------------|----------|
| 水反応可燃性化学品 | : 区分外 |
| 酸化性液体 | : 分類できない |
| 酸化性固体 | : 分類対象外 |
| 有機過酸化物 | : 分類できない |
| 金属腐食性物質 | : 分類できない |
| 急性毒性 (経口) | : 区分 4 |
| 急性毒性 (経皮) | : 区分外 |
| 急性毒性 (吸入-ガス) | : 分類対象外 |
| 急性毒性 (吸入-蒸気) | : 分類できない |
| 急性毒性 (吸入-粉じん及び ミスト) | : 分類できない |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | : 区分外 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は 眼刺激性 | : 区分外 |
| 呼吸器感作性 | : 分類できない |
| 皮膚感作性 | : 区分外 |
| 生殖細胞変異原性 | : 分類できない |
| 発がん性 | : 分類できない |
| 生殖毒性 | : 分類できない |
| 特定標的臓器毒性 (単回ばく 露) | : 分類できない |
| 特定標的臓器毒性 (反復ばく 露) | : 分類できない |
| 吸引性呼吸器有害性 | : 分類できない |
| 水生環境有害性 短期 (急 性) | : 区分 1 |
| 水生環境有害性 長期 (慢 性) | : 区分 1 |
| オゾン層への有害性 | : 分類できない |

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : H302 飲み込むと有害。
H400 水生生物に非常に強い毒性。
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き :

安全対策:

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P264 取扱後は顔と手をよく洗うこと。

応急措置:

P391 漏出物を回収すること。
P330 口をすすぐこと。
P301 + P312 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

保管:

該当しない

廃棄:

P501 国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

| 成分名称 | CAS 番号 | 濃度 (%) | 化審法番号 | 安衛法番号 |
|--|--------------|--------|-------|------------|
| 3-(ジフルオロメチル)-N-[(R)-2,3-ジヒドロ-1,1,3-トリメチル-1H-インデン-4-イル]-1-メチルピラゾール-4-カルボキサミド (一般名:インピルフルキサム) | 1352994-67-2 | 37.0 | 該当しない | 8-(2)-2759 |
| 水、界面活性剤等 | 非開示 | 63.0 | 非開示 | 非開示 |

危険有害成分

| 化学名 | CAS 番号 | 含有量 (% w/w) |
|--|--------------|-------------|
| 3-(ジフルオロメチル)-N-[(R)-2,3-ジヒドロ-1,1,3-トリメチル-1H-インデン-4-イル]-1-メチルピラゾール-4-カルボキサミド (一般名:インピルフルキサム) | 1352994-67-2 | 37.0 |
| キシレン | 1330-20-7 | 0.19 以下 |

4. 応急措置

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。

| | |
|-------------|---|
| | <p>呼吸が停止した場合には、人工呼吸を施す。 口対口法を用いてはならない。 鼻、口、喉を水でゆすぐ。 体を毛布などで覆い、保温する。 もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。 物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。 経過観察をする必要がある。 直ちに医師の診断/手当てを受けること。</p> |
| 皮膚に付着した場合 | <p>: 多量の水と石けん（鹼）で優しく洗うこと。 直ちに汚染された服と靴を取り除く/脱ぐ。 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。</p> |
| 眼に入った場合 | <p>: 目を擦ってはならない。 まぶたを開いた状態に保つ。 できるだけ早く水で洗い始め、数分間注意深く洗う。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 必要があれば医師の診断/手当てを受けること。</p> |
| 飲み込んだ場合 | <p>: 口をすすぐこと。 嘔吐の誘発を試みる。 意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。 意識がないときや痙攣を起こしているときは、吐かせてはならない。 直ちに医師の診断/手当てを受けること。 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 体を毛布などで覆い、保温する。 もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。 呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。 呼吸が停止した場合には、人工呼吸を施す。 口対口法を用いてはならない。 物質へのばく露の影響が遅れて出てくることがある。 経過観察をする必要がある。</p> |
| 応急措置をする者の保護 | <p>: 救助の際は保護具を着用する（「8. ばく露防止及び保護措置」を参照）。</p> |

5. 火災時の措置

| | |
|-------------------------|--|
| 消火剤 | <p>: 粉末消火剤 泡消火剤 二酸化炭素 乾燥砂</p> |
| 使ってはならない消火剤 特有の危険有害性 | <p>: 棒状水 : 混触危険物質（「10. 安定性及び反応性」参照）に留意して、適切な冷却手段にて容器を冷却する。 燃焼ガスおよび/または分解ガスには、刺激性、腐食性および/または毒性のガスが含まれるおそれがある。 火災の際は有害なガス（「10. 安定性及び反応性」参照）が発生し、めまいや窒息や健康被害を引き起こすおそれがある。 消火水中に有害物が含まれ、環境や生物に影響を与えることがある。</p> |

- 特有の消火方法 : 風上から作業する。
 安全な場所から消火する。
 関係者以外の立ち入りを禁止する。
 大規模火災で大量にある場合：区域より退避させ、十分に離れた距離から消火すること。
 周辺の他の未燃可燃物の防護：可能かつ安全ならば、容器を移動させるか、散水などで冷却する。
 外部火災からの製品防護：可能かつ必要がある場合は、製品の入った容器を安全な場所に移動させ、容器または周辺設備を水等で冷却する。
 火災がとめられない場合は、火災の拡大・類焼を防止するために噴霧散水により冷却しながら燃焼させたままにする。
 消火剤で表面を覆い窒息消火する。
 危険でなければ漏れを止める。
 消火に用いた水は堰を作って囲い、後で廃棄する。
 物質がちらばらないようにする。
- 消火を行う者の保護 : 各国、地域で規定された標準の全身保護衣および空気式呼吸器(SCBA)を着用する。
 防護面、ヘルメット、手袋を含む耐炎性防火服を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 人体に対する注意事項
 適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」参照）を着用して、飛沫等の眼または皮膚への付着や、ミストまたは蒸気の吸入をしないようにする。
 緊急処置
 風下の人を退避させ、風上から作業する。
 関係者以外の立ち入りを禁止する。
 周辺環境に、影響（健康被害を含む）を及ぼすおそれがある場合は、周辺の居住者に警告する。
 付近の着火源となるものを、直ちに取り除く。
 大きな安全地帯を設定する。
 大量漏出の場合、蒸気を抑えるために泡を使用する。
 大量の場合、噴霧散水は蒸気濃度低減に有効なことがある。
 二次災害の防止策
 全ての着火源(熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等)を取り除く。
 適切な消火剤を準備する（「5. 火災時の措置」を参照）。
 排水溝、下水溝、地下室、くぼ地あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- 環境に対する注意事項 : 環境中に放出しないこと。
 漏出物が水系（河川や下水など）に流入して環境への影響を起ささないように、堤を作って堰止める。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 速やかに回収する。
 危険でなければ漏れを止める。
 広がらないように堰を作り、後で廃棄する。
 残留液を乾燥した土、砂や不燃性材料で吸収させ、安全な場所に移す。
 適切な吸収材に吸収させて回収する作業を繰り返し、全量を回収する。
 防爆型の電気機器/換気装置/照明設備/装置を使用すること。
 全ての着火源(熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等)を取

り除く。

漏洩または漏出物を回収する場合は、専門家のアドバイスを求める。

残留分を注意深く集め、安全な場所に移す。

回収作業は、安全取扱い（「7. 取扱い及び保管上の注意」参照）措置をしたうえで実施すること。

廃棄方法は「13. 廃棄上の注意」を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- : 全ての着火源を取り除く。
静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。
防爆型の電気機器/換気装置/照明設備/装置を使用すること。
ミストの発生を防止する。
漏洩ばく露に備えて、風上から作業する。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
設備対策を行い、保護具を着用する（「8. ばく露防止及び保護措置」参照）。
ミスト/蒸気を吸入しないこと。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
眼、皮膚、衣服への接触を避ける。
休憩場所には、汚染された保護具を持ち込まないこと。
皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らない様に適切な保護具を着用する。
可能な限り、使い捨ての保護衣を着用する。
汚染された作業衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。
汚染された保護衣は安全な方法で廃棄すること。

局所排気, 全体換気 安全取扱い注意事項

- : 局所排気および/または全体換気を行う。
- : 混触危険物質（「10. 安定性及び反応性」参照）から離しておく。

衛生対策

- : 使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
密閉系で取り扱えない場合は、屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
本製品を吸入してはならない。
ヒトへのあらゆるばく露を避けること。
眼や口に入れない、また皮膚に付けない。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は、適切な方法で廃棄または洗浄・再利用すること。
汚染された保護具、作業衣等を処分する際は、周辺環境を汚染することがないように適切な方法を用いること。
取扱後は顔と手をよく洗うこと。

保管

安全な保管条件

- : 保管場所には、必要な採光または照明および換気の設備を設ける。
静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。
容器を接地すること/アースをとること。

食品、飲料水、動物の餌から離しておく。
 直射日光を避ける。
 冷所に保管。
 換気の良い場所で保管すること。
 容器を密閉しておくこと。
 排水管や下水管へのアクセスのない場所で貯蔵する。
 「10. 安定性及び反応性」を参照。

安全な容器包装材料 : 情報無し

8. ばく露防止及び保護措置

作業環境における成分別ばく露限界/許容濃度

| 成分 | CAS 番号 | 指標 (ばく露形態) | 管理濃度 / 許容濃度 | 出典 |
|------|--|------------|---------------------------------|-----------------|
| キシレン | 1330-20-7 | ACL | 50 ppm | 安衛法 (管理濃度) |
| | | OEL-M | 50 ppm 217 mg/m ³ | 日本産業衛生学会 (許容濃度) |
| | 詳細情報: 第 2 群: ヒトに対しておそらく生殖毒性を示すと判断される物質 | | | |
| | | TWA | 100 ppm | ACGIH |
| | | STEL | 150 ppm | ACGIH |

生物学的職業ばく露限度

| 成分 | CAS 番号 | 対象物質 | 生物学的試料 | 試料採取時期 | 許容濃度 | 出典 |
|------|-----------|-----------------------------|--------|------------------------|----------------|-----------|
| キシレン | 1330-20-7 | 総メチル馬尿酸 (o-, m-, p-三異性体の総和) | 尿 | 週の後半の作業終了時 | 800 mg/l | 日本産業衛生学会 |
| | | メチル馬尿酸 | 尿 | シフト終了時 (ばく露停止後できるだけ早く) | 1.5 g/g クレアチニン | ACGIH BEI |

設備対策 : 吸収装置を備えた局所排気装置および/または全体換気装置を使用する。
 取扱場所に、手洗い設備、洗身洗眼設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具 : 呼吸用保護具は、適切な保護具を使用すること。
 緊急時および漏出時の措置では、空気呼吸器あるいは循環式酸素呼吸器 (SCBA) を着用する。

手の保護具 : 手の保護具は、適切な保護具を使用すること。
 不浸透性保護手袋

眼の保護具 : 眼の保護具は、適切な保護具を使用すること。
 安全ゴーグルまたは保護眼鏡と防災面

皮膚及び身体の保護具 : 個人用保護具 (PPE) は、適切な保護具を使用すること。
 帽子、靴、合羽等を含む適切な不浸透性保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|-----------------|---|
| 外観 | : 液体 |
| 色 | : 類白色 |
| 臭い | : データなし |
| pH | : 7.9 |
| 融点・凝固点 | : データなし |
| 沸点 | : データなし |
| 引火点 | : 方法: クリーブランド開放式 データなし (試験中にサンプルから生じた不燃性蒸気によって試験炎が消炎した。) |
| 蒸発速度 | : データなし |
| 爆発範囲の上限 / 可燃上限値 | : データなし |
| 爆発範囲の下限 / 可燃下限値 | : データなし |
| 蒸気圧 | : データなし |
| 相対蒸気密度 | : データなし |
| 比重 | : 1.08 (20 °C) |
| 密度 | : データなし |
| 溶解度(水) | : データなし |
| 溶媒に対する溶解性 | : データなし |
| n-オクタノール／水分配係数 | : データなし |
| 自然発火温度 | : データなし |
| 分解温度 | : データなし |
| 粘性率 | : 1,593 mPa·s (25 °C) |

10. 安定性及び反応性

| | |
|-----------|--|
| 化学的安定性 | : 通常状態で安定。 |
| 危険有害反応可能性 | : ミストは、温度によらず空気と爆発性混合物を形成するおそれがある。 裸火 機械火花 電気火花 溶接火花 高温表面 加熱 |

| | |
|------------|--|
| | 摩擦熱 静電気放電 : 火災や爆発のおそれ 次亜塩素酸塩類 : 熱的衝撃および/または機械的衝撃などで容易に分解する不安定物質を生成するおそれ 強酸化剤 強酸 強塩基 : 火災、爆発、および有毒ガスの発生のおそれ |
| 避けるべき条件 | : 裸火 機械火花 電気火花 溶接火花 加熱 高温表面 静電気放電 |
| 混触危険物質 | : 強酸化剤 強酸 強塩基 |
| 危険有害な分解生成物 | : 次亜塩素酸塩類 一酸化炭素 二酸化炭素 炭化水素 すす 窒素酸化物 アンモニア フッ化水素 フッ素化合物 リン酸化物 ケイ素化合物 ケイ酸 無機成分を含む微粒子が発生するおそれがある。 |

11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報 : 経口
吸入
経皮
眼

急性毒性

製品:

急性毒性（経口） : LD₅₀（ラット）: 300mg/kg < LD₅₀ < 2000mg/kg
標的臓器: 利用可能な情報に基づく限り分類できない。

急性毒性（吸入） : 備考: データなし

急性毒性（経皮） : LD₅₀（ラット）: > 2,000 mg/kg
標的臓器: 特定標的臓器は認められない。

成分:

インピルルルルル:

急性毒性 (吸入) : LC₅₀ (ラット): > 2.610 mg/l
ばく露時間: 4 h
標的臓器: 特定標的臓器は認められない。
備考: 粉じん、ミストおよび煙

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

製品:

種 : ウサギ
結果 : 刺激性なし

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

製品:

種 : ウサギ
結果 : 刺激性なし

呼吸器感作性又は皮膚感作性

製品:

試験タイプ : 皮膚感作性
種 : モルモット
方法 : ビューラー法
結果 : 感作性なし

生殖細胞変異原性

製品:

in vitro での遺伝毒性 : 備考: データなし

in vivo での遺伝毒性 : 備考: データなし

成分:

インピルフルサム:

in vitro での遺伝毒性 : 試験タイプ: Ames 試験
テストシステム: ネズミチフス菌および大腸菌
結果: 陰性

試験タイプ: 染色体異常試験
テストシステム: チャイニーズハムスター細胞
結果: 陰性

試験タイプ: 遺伝子突然変異試験
テストシステム: チャイニーズハムスター細胞
結果: 陰性

in vivo での遺伝毒性 : 試験タイプ: 小核試験
種: マウス
細胞型: 骨髄
投与経路: 経口
結果: 陰性

発がん性

製品:

備考 : データなし

成分:

インピルルサム:

種 : ラット
投与経路 : 混餌
方法 : 発がん性試験
結果 : 発がん性なし

種 : マウス
投与経路 : 混餌
方法 : 発がん性試験
結果 : 発がん性なし

生殖毒性

製品:

妊娠に対する影響 : 備考: データなし

胎児の発育への影響 : 備考: データなし

成分:

インピルルサム:

妊娠に対する影響 : 種: ラット
投与経路: 混餌
方法: 2世代繁殖毒性試験
結果: 繁殖性に影響なし

胎児の発育への影響 : 種: ラット
投与経路: 経口
方法: 催奇形性試験
結果: 催奇形性なし

種: ウサギ
投与経路: 経口
方法: 催奇形性試験
結果: 催奇形性なし

特定標的臓器毒性, 単回ばく露

急性毒性 (「11. 有害性情報」) を参照

特定標的臓器毒性, 反復ばく露

製品:

備考 : データなし

成分:

インピルルサム:

種 : ラット
 投与経路 : 混餌
 方法 : 90 日間反復投与毒性試験
 標的臓器 : 特定標的臓器は認められない。

種 : マウス
 投与経路 : 混餌
 方法 : 90 日間反復投与毒性試験
 標的臓器 : 特定標的臓器は認められない。

種 : イヌ
 投与経路 : 経口
 方法 : 90 日間反復投与毒性試験
 標的臓器 : 特定標的臓器は認められない。

種 : ラット
 投与経路 : 経皮
 方法 : 28 日間反復投与毒性試験
 標的臓器 : 特定標的臓器は認められない。

吸引力呼吸器有害性

製品:

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

製品:

魚毒性 : LC₅₀ (コイ): 0.18 mg/l
 ばく露時間: 96 h

ミジンコ等の水生無脊椎動物 : EC₅₀ (オオミジンコ): 3.2 mg/l
 に対する毒性 : ばく露時間: 48 h

藻類/水生生物に対する毒性 : ErC₅₀ (緑藻): 130 mg/l
 ばく露時間: 0 - 72 h

NOECr (緑藻): 3.1 mg/l
 ばく露時間: 0 - 72 h

魚毒性 (慢性毒性) : 備考: データなし

ミジンコ等の水生無脊椎動物 : 備考: データなし
 に対する毒性 (慢性毒性)

成分:

インピルホルサム:

魚毒性 : LC₅₀ (コイ): 0.067 mg/l
 ばく露時間: 96 h

LC₅₀ (ニジマス): 0.031 mg/l
 ばく露時間: 96 h

LC₅₀ (ブルーギル): 0.054 mg/l

ばく露時間: 96 h

LC₅₀ (ファットヘッドミノー): 0.050 mg/l

ばく露時間: 96 h

LC₅₀ (メダカ): 0.79 mg/l

ばく露時間: 96 h

LC₅₀ (ゼブラフィッシュ): 0.30 mg/l

ばく露時間: 96 h

LC₅₀ (グッピー): 0.35 mg/l

ばく露時間: 96 h

ミジンコ等の水生無脊椎動物 : EC₅₀ (オオミジンコ): 1.1 mg/l
に対する毒性 : ばく露時間: 48 h

藻類/水生生物に対する毒性 : ErC₅₀ (緑藻): > 23 mg/l
ばく露時間: 0 - 72 h

NOECr (緑藻): 3.1 mg/l

ばく露時間: 0 - 72 h

魚毒性 (慢性毒性) : NOEC (ファットヘッドミノー): 0.0075 mg/l

NOEC (魚類): 0.034 mg/l

ミジンコ等の水生無脊椎動物 : NOEC (オオミジンコ): 0.13 mg/l
に対する毒性 (慢性毒性)

その他生物に対する毒性 : 蚕に対して影響がある。

残留性・分解性

生分解性 : 備考: データなし

生体蓄積性

生体蓄積性 : 備考: データなし

土壌中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

オゾン層破壊係数 : 国際規制: UNEP - オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書のためのハンドブック
備考: リストに掲載なし

他の有害影響

データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法

国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って、内容物/容器を適切に廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送 (UNRTDG)

国連番号 (UN number) : UN3082
 国連輸送名 (Proper shipping name) : 環境有害物質、液体、n. o. s. (インピフルキサム混合物)
 国連分類 (Class) : 9
 容器等級 (Packing group) : III
 ラベル (Labels) : 9

航空輸送 (IATA-DGR)

UN/ID 番号 (UN/ID number) : UN3082
 国連輸送名 (Proper shipping name) : 環境有害物質、液体、n. o. s. (インピフルキサム混合物)
 国連分類 (Class) : 9
 容器等級 (Packing group) : III
 ラベル (Labels) : Miscellaneous Dangerous Goods
 梱包指示 (貨物機) (Packing instruction (cargo aircraft)) : 964
 梱包指示 (旅客機) (Packing instruction (passenger aircraft)) : 964

海上輸送 (IMDG-Code)

国連番号 (UN number) : UN3082
 国連輸送名 (Proper shipping name) : 環境有害物質、液体、n. o. s. (インピフルキサム混合物)
 国連分類 (Class) : 9
 容器等級 (Packing group) : III
 ラベル (Labels) : 9
 EmS コード (EmS Code) : F-A, S-F
 海洋汚染物質 (該当・非該当) (Marine pollutant) : 該当

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当)
 供給された状態の製品には非該当。

緊急時応急措置指針番号

171

国内規制

国の特定の法規制は、項目 15 を参照する。

特別の安全対策

備考

: 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
 転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
 車輦、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、

緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのため、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。

15. 適用法令

関連法規

消防法

危険物、指定可燃物に該当しない。

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物

非該当

製造の許可を受けるべき有害物

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）

非該当

変異原性の認められた化学物質（新規届出化学物質）

非該当

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2（施行令別表第 9）

| |
|------|
| 化学名 |
| キシレン |

名称等を表示すべき危険物及び有害物

非該当

特定化学物質障害予防規則

非該当

鉛中毒予防規則

非該当

四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一（危険物）

非該当

毒物及び劇物取締法

劇物

3-（ジフルオロメチル）-1-メチル-N-〔（3R）-1, 1, 3-トリメチル-2, 3-ジヒドロ-1H-インデン-4-イル〕-1H-ピラゾール-4-カルボキサミド（インピルピルサム）及びこれを含む製剤

化学物質排出把握管理促進法

非該当

高圧ガス保安法

非該当

火薬類取締法

非該当

船舶安全法

危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1: 有害性物質

航空法

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: その他の有害物

海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律

個品輸送 : 海洋汚染物質

水質汚濁防止法

指定物質 (法第 2 条 4 項、施行令第 3 条の 3)

有害物質 (法第 2 条、施行令第 2 条、排水基準を定める省令第 1 条) (ふっ素及びその化合物)

水道法

有害物質 (法第 4 条第 2 項)、水質基準 (平 15 省令 101) (フッ素及びその化合物)

下水道法

水質基準物質 (法第 12 条の 2 第 2 項、施行令第 9 条の 4) (ふっ素及びその化合物)

土壌汚染対策法

特定有害物質 (法第 2 条第 1 項、施行令第 1 条) (ふっ素及びその化合物)

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物

農薬取締法

農薬

16. その他の情報

引用文献

住友化学株式会社 ミリオネアフロアブル 安全データシート 作成日 2019 年 9 月 6 日

注意事項

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等のために作成されたものですが、記載されている情報はいかなる保証をするものではなく、品質を特定するものでもありません。また、この SDS のデータはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料と組み合わせた使用に関しては有効ではありません。